

中高温微生物研究センター活動日誌 (2009年9月~2013年12月)

1. 第1回センター運営委員会 (2009年9月3日)
本研究センターの体制および活動計画を討議した。センター長・松下, 副センター長・山田, 各部門長 (発酵部門: 山田, 環境部門: 横山, 病原部門: 伊藤), センター・メンバー15名 (内, 客員5名) で出発することとした。
2. センター開所式 (2009年9月15日)
丸本学長をはじめ関係副学長、研究科長、部課長・事務長及びセンター関係教員ら30数名の参加のもと、開所式および看板徐幕式を行った。
3. 中高温微生物研究センター開所記念シンポジウム (2009年11月19日)
「地球温暖化に向けた新たな微生物学の展開を A New Turn in Microbiology upon Global Warming」山口大学大学会館で開催 (参加者はタイ・ベトナムからの研究者4名を含めて125名)
4. 本学国際化推進事業 (2009年9月26日申請、本学国際戦略室) による海外研究者との共同研究
招聘研究者 (タイ・カセサート大, フィリピン University of the Philippine Los Banos, バングラディシュ Jahangirnagar University, 韓国慶尚大学獣医学部講師) 4名
研究者派遣 (今井: タイ・カセサート大, 山田: バングラディシュ Jahangirnagar University, 本道・前田: フィリピン College of Veterinary Medicine, UPLB, 橘 (院生・度会): 韓国慶尚大学) 5名
5. 学術研究部予算 (2009年10月7日: 200万円) による海外研究者との共同研究
研究者招聘 (Varavut Tanamool: 今井研, Somporn Moonmangmee: 松下研, Le Thi Thanh Thuy: 伊藤研) 3名
研究者派遣 (Noppon Lertwattanasakul: 山田研) 1名
6. 第1回発酵微生物部門セミナー (2009年12月2日)
ポスドク4名 (工1, 農3), 研究補助員2名 (農), 博士1名, 教員1名 (医) による発表 (参加者30名程度)
7. 微生物推進体第1回研究集会の共催 (2009年12月22日)
2題の特別講演 (倉田博之 (九工大) 石井正治 (東大)) と64題のポスター発表 (参加者143名)
8. 第2回センター運営委員会 (2010年3月18日)
2009年度後半の活動総括と2010年度の活動計画についての討議
センター・メンバーは、転出と新任の了承に伴い、16名 (内, 客員4名) に変更。
9. 第1回環境微生物部門セミナー (2010年7月10日)

横山、藤井、藤島、今井各教員による研究紹介（参加者 20 名程度）

10. 第 1 回病原微生物部門セミナー（2010 年 7 月 31 日）
伊藤、阿座上、度会、加藤、佐藤、前田による研究紹介（参加者 20 名程度）
11. 第 3 回センター運営委員会（2010 年 10 月 7 日）
2010 年度前半の活動総括と 2010 年度後半の活動計画の討議。
12. 研究推進体「微生物の機能進化と環境適応」第 2 回研究集会の共催（2010 年 12 月 24 日）
三角、下島、高坂と博士研究員 1 名の 4 題の講演と 76 題のポスター発表（参加者 169 名）
13. アルゼンチンから分離された酢酸菌 20 株を研究センター保存株（RCTMR1~RCTMR 20）
として登録し、応用微生物研究室で保存することとした。
14. 第 2 回発酵微生物部門セミナー（2011 年 2 月 8 日）
ポスドク 4 名（工 1, 農 3）、東（現・近畿大）、星田（工）、薬師（農）による研究発表（参
加者 30 名程度）
15. 第 4 回センター運営委員会（2011 年 3 月 10 日）
2010 年度後半の活動総括と 2011 年度前半の活動計画についての討議。
センター長の選考について協議し、2011 年 4 月 1 日から 2 年間、松下が引き続き、セン
ター長を努めることとなった。なお、副センター長は山田が努めることでした承された。
また、病原微生物部門の部門長を伊藤に替わり前田が努めることになった。
センター・メンバーは、退任・新任の了承に伴って、18 名（内、客員 4 名）となった。
16. 第 2 回中高温微生物研究センターシンポジウム（2011 年 6 月 9 日）
「地球温暖化対策としての中高温微生物学の展開をーその原理解明と産業利用ー」東京
リエゾンオフィスで開催（2011 年 3 月開催予定を震災のため順延）（参加者 51 名）
17. 第 2 回環境微生物部門セミナー（2011 年 5 月 21 日）
三角および大学院生 3 名（Dr 2 名, Ms 1 名）の発表（参加者 30 名程度）
18. 第 2 回病原微生物部門セミナー（2011 年 9 月 28 日）
Dr. Sudisha Jogaiah (JSPS-PhD) および大学院生 2 名（Dr 1 名, Ms 1 名）の発表（参加者 30
名程度）
19. 第 5 回センター運営委員会（2011 年 9 月 30 日）
2011 年度前半の活動総括と 2011 年度後半の活動計画についての討議。
20. 研究推進体「微生物の機能進化と環境適応」第 3 回研究集会の共催（12 月 8 日）
阿座上、博士研究員 2 名および博士学生 1 名の 4 題の講演とポスター発表 72 件（参加
者総数 130 名以上）。
21. 第 6 回臨時センター運営委員会（2011 年 12 月 12 日）

獣医学科が共同獣医学部として農学部から独立することに伴う 2012 年度以降のセンターのあり方についての討議。

22. 第 3 回環境微生物部門セミナー (2012 年 2 月 4 日)
大学院生 1 名, 4 年生 3 名の研究発表を行った。(参加者 30 名程度)
23. 第 3 回発酵微生物部門セミナー (2012 年 2 月 10 日)
原田 博氏 (外部講師; 山大客員教授) 「地産消費型バイオエタノール生産の事業化」の講演に加え, 博士研究員 2 名, 研究補助員 1 名, 大学院生 1 名の研究発表を行った。(参加者 30 名程度)
24. 第 3 回中高温微生物研究センターシンポジウム (2012 年 3 月 2 日)
「病原微生物研究の最前線-寄生虫、原虫、細菌、マイコプラズマ、ウイルスまで-」を本学共通教育棟で開催 (参加者 131 名)
25. 第 7 回臨時センター運営委員会 (2012 年 3 月 8 日)
第 6 回臨時運営委員会に続き, 2012 年度以降のセンターのあり方を検討し, 農学部拡大教授会に「山口大学農学部及び共同獣医学部附属中高温微生物研究センター」への名称変更を提案することとした。加えて, 副センター長を山田から前田に, 発酵部門長を山田から薬師に変更することとした。
26. 第 8 回センター運営委員会 (2012 年 5 月 22 日)
2011 年度全般の活動総括と 2012 年度の活動計画についての討議。
27. 第 4 回中高温微生物研究センターシンポジウム (2012 年 9 月 25 日)
「環境微生物 - 発見、解析、問題解決 -」を本学共通教育棟で開催 (64 名)。
28. 第 9 回研究センター運営委員会 (2012 年 10 月 18 日)
2012 年度前半の活動総括と 2012 年度後半の活動計画についての討議。
29. 研究推進体「微生物の機能進化と環境適応」第 4 回研究集会の共催 (12 月 17 日)
教員 2 名, 学術研究員 1 名および博士学生 1 名の 4 題の講演とポスター発表 92 件 (参加者総数 150 名以上)。
30. 第 10 回研究センター運営委員会 (2013 年 3 月 8 日)
2012 年度後半の活動総括と 2013 年度前半の活動計画についての討議。
センター長の選考について協議し, 2013 年 4 月 1 日から 2 年間, 松下が引き続き, センター長を努めることとなった。
31. 第 11 回研究センター運営委員会 (2013 年 5 月 28 日)
2013 年度の活動計画全般の討議。新たに、長谷川 明洋 (医学部・ゲノム・機能分子解析学分野 准教授), 星田 尚司 (大学院医学系研究科・応用分子生命科学系・工学 准教授), 荻野 英賢 (医学部・ゲノム・機能分子解析学分野 助教), 片岡 尚也 (農学部・生物機能科学科 助教), 柳 由貴子 (農学部生物資源環境科学科、助教) をメンバーに

加えることとなった。

32. センターパンフレット（和文および英文）を 2013 年 9 月 1 日付けで発行した。
33. 第 4 回環境微生物部門セミナー（2013 年 9 月 7 日）
新任の柳先生，大学院生 1 名，4 年生 1 名，留学生 1 名の研究発表を行った。（参加者 40 名）
34. 第 1 2 回微生物研究センター運営委員会（2013 年 9 月 25 日）
35. 病原微生物部門 第 4 回（10 月 15 日）
36. 第 5 回センター・シンポジウム（11 月 22 日）
37. 研究推進体「微生物の機能進化と環境適応」第 5 回研究集会の共催（12 月 13 日）
学内の学術研究員 2 名および学外から教員と修士学生各 1 名の 4 題の講演とポスター発表 101 件（参加者総数 160 名）。